

# 余市町立地適正化計画

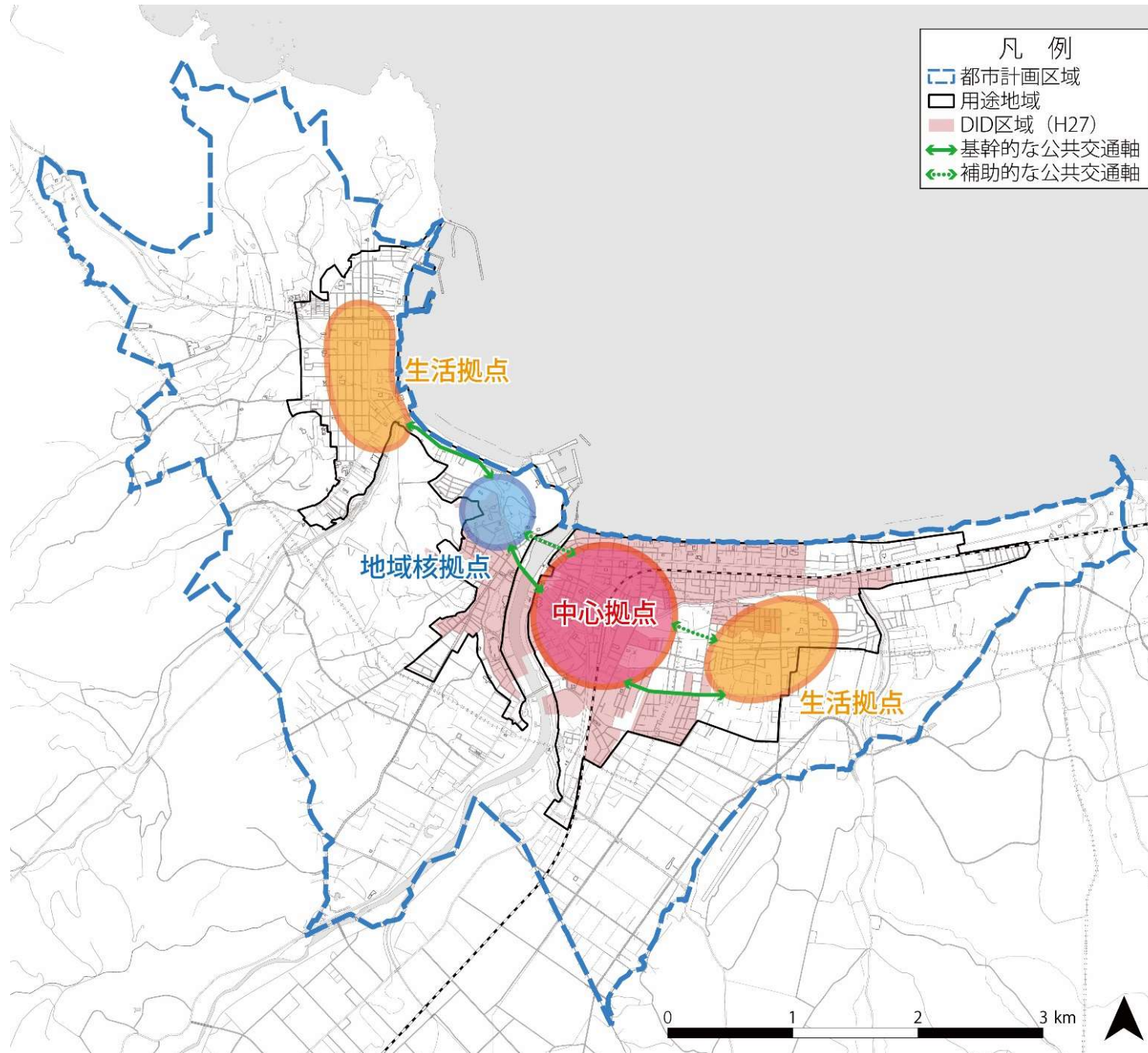
## 【都市の骨格構造】

- ・ 居住誘導区域や都市機能誘導区域の検討にあたり、都市全体の観点から拠点と基幹的な交通軸を設定し、都市の骨格構造を設定します。
- ・ 基幹的な交通軸と拠点については、『余市町都市計画マスタープラン』の将来都市構造において定めている「ゾーン（土地利用）」「都市軸（主要動線）」「拠点（生活や交流の主要な場所）」の考え方を基本とします。
- ・ 都市を支える「中心拠点」は、JR余市駅を中心に線路を跨いだ東西の範囲を一体的に構成し、本町の中核をなす地域を位置付けます。
- ・ 経済・交流を支える「地域核拠点」は、行政施設、金融施設、教育施設等が立地している地域を位置付けます。  
(役場や税務署が立地する朝日・入舟地区を設定)
- ・ 日常生活を支える「生活拠点」は、中心拠点と地域核拠点周辺の用途地域内において、商業施設や医療施設、子育て施設、集会施設等が立地している地域を位置付けます。  
(黒川まほろば地区、沢・富沢地区の2つを設定)
- ・ 各拠点については、公共交通を主としたネットワークを構築し、連携を図りながら生活の利便性を確保します。

青字部分は事務局による見直し箇所

- ・本町における市街地形成は、発祥の地である西部地区から東方向へ拡大する形で広がり、JR余市駅前を中心とした地域に中心市街地が形成されましたが、その後、自家用車の普及等を背景に国道5号と道道登余市停車場線沿いに市街地が広がりました。
- ・このような背景を踏まえ、居住誘導区域や都市機能誘導区域の検討にあたっては、余市町全体の観点から拠点と基幹的な交通軸を設定し、余市町の骨格構造を設定します。
- ・基幹的な交通軸と拠点については、『余市町都市計画マスタープラン』の将来都市構造において定めている「ゾーン（土地利用）」「都市軸（主要動線）」「拠点（生活や交流の主要な場所）」の考え方を基本とします。
- ・都市を支える「中心拠点」は、JR余市駅を中心に線路を跨いだ東西の範囲を一体的に構成し、本町の中核をなす地域を位置付けます。
- ・経済・交流を支える「地域核拠点」は、行政施設、金融施設、教育施設等が立地している地域を位置付けます。  
(役場や税務署が立地する朝日・入舟地区を設定)
- ・日常生活を支える「生活拠点」は、中心拠点と地域核拠点周辺の用途地域内において、商業施設や医療施設、子育て施設、集会施設等が立地している地域を位置付けます。  
(黒川まほろば地区、沢・富沢地区の2つを設定)
- ・各拠点については、公共交通を主としたネットワークを構築し、連携を図りながら生活の利便性を確保します。

# 都市の骨格構造



余市町立地適正化計画における都市の骨格構造